

控室

議員定数削減へ

先の議員全員協議会時に、議長の私的諮問機関である議会改革推進協議会の答申が、「議員定数削減」との方針なら、その「削減数を示して、改革する意思を示すべきでないか」という議員の意見を受けて、推進協議会では再度の協議を重ねた。

議会改革推進協議会からの出された、削減の理由や背景を要約すると、

①人口の減少に伴い市税や地方交付税の段階的な減少により、組織や各公共施設の統合を図り、効率的な行政運営が求められている。

②県内の市議会の議員定数の動向も、削減の方向で推移している

③本市では、合併以降、特に人口の減少が激しく、市職員も大幅に削減されているなか、議会についても、例外ではない。

議員定数を1名〜3名削減すべき、削減数は議員全員協議会で協議すべきとの報告がされた。

全員協議会では1名減と3名減という2案が大勢を占め、この調整のために、さらに2回の協議を重ねた結果

①議員定数の削減は、より広い地域をカバーすることに、大幅な削減により、地域の住民の意見を反映でき難くなることは避

けるべきである。

②効率的な行政効率を求めるあまり、住民の声が集約でき難くなることは、住民自治の根幹を揺るがすものである。

③議員のなり手不足が深刻化しているなか、次期改選まで1年を切っている現時点では、急激に大幅な削減をすべきでない。

削減数は1人とすべきとの意見に集約され、議長に答申することに決定した。

なお、議論の過程では、次の意見もあった。「本市では、財政の健全化のために、職員の定員適正化計画による削減目標15.9%を掲げ、全体の職員数の減少による人件費の抑制を図っている。」

議会もこの目標値15.9%を準用し、定数を3人削減するべきである。

その結果として生じる節減効果を、広く住民へ還元するための政策に充て、あるいは、基金を創設するなどして、今後避けられない建物などの維持管理経費に備えることこそが、将来の市民負担を減らすことにつながり、議会としての責務ではないか。」という意見もあったことを申し添える。

今後の議員定数のあり方については、さらに十分な議論をつくすべきである。

(伊藤 邦彦 記)

編集後記

田沢湖畔に7月1日オープンした、クニマス未来館の内覧会には多くの市民が訪れ約70年ぶりに里帰りし、水槽の中で元気に泳ぐクニマスの姿を見て思わず「お帰りにさい」と声を掛けている方もいた。

の中坊名誉教授。発見された後、西湖でのヒメマス釣りの規制やクニマスの養殖に、そして里帰りに尽力していただいた山梨県等色々な方々からの力添えがあつて里帰りが実現し、クニマス未来館のオープンへとつながった。

生態がまだ不明な部分も多いため孵化や養殖後の生存率が6.9%と低く、養殖技術が確立し仙北市での養殖までには年月を要すること。未来館を維持管理していく上では

電源開発と食糧増産のため安住の地を追われ、山梨県西湖で命をつなぎ、奇跡的に生き延びていたクニマスには神秘的な生命力を感じる。玉川の強酸性の水が導入されクニマスの死滅を恐れ各地の湖に発眼卵を送った秋田県と桂湖(田沢湖)漁業組合。各地の湖に生き延びていないか探し求めて歩いた三浦久兵衛さん。クニマスを発見した魚類学者サカナクン。田沢湖だけにしか生息していなかったクニマスに興味を示し研究したことが発見につながり、養殖等の指導を頂いた京都大学

来館者数の確保が重要で環境保護等で世界に発信していかなければならぬこと。田沢湖の酸性水等多くの課題がある。未来館オープンが田沢湖再生への一里塚として、一步を踏み出さなければ前には進まない。田沢湖を再生し、魚類の生息する湖に環境を回復させることが私達に課せられた責務である。

(門脇 民夫 記)